

ストップ 石綿汚染

堺の学校 飛散防止対策急ぐ

堺市立新金岡小学校など市内の小、中学校四校で、発がん物質として問題化している石綿(アスベスト)が見つかったことで堺市教委は十日、石綿の使用状況をつかむためあらためて全校園の総点検に乗り出したが、文部省でも今年五月、全国の都道府県教委に、公立学校の校舎で使われていないか通達、今月から実態調査に乗り出しており、石綿汚染防止対策は急ピッチで進めよう。

石綿の繊維はミクロン(一ミリの千分の一)単位で、吸い込むと肺細胞に突き刺さり、肺がんの原因になるといわれ、最近になって欧米諸国やWHO(世界保健機関)で発がん性を確認。これを受け労働省は建築作業での石綿吹き付け工事の禁止(五十年)など労働環境上の規制を進めて

いる。しかし、いったん吹きつけられた石綿の除去は困難。無造作に除去するとかえって空中に石綿が飛び散り、作業に従事する人の健康に障害を与えかねない。米国では専門業者の監督の下で作業が行われているのに比べ、国内では専門業者が皆無というのが実情。飛散しないように凝固材を注入し、固めてしまう方法もあるが、恒久対策とは言えない。

ただ、すぐに子供たちの体をむしばみ、肺がんを発病するものではないが、放置しておくと危険性をほらむことになる。石綿関連疾患を三十年

間診察している横山邦彦・国立療養所近畿中央病院理学診療科医長は「石綿が見つかったからと言って、すぐに肺がんになるというのではない。ただ二十年、四十年先に肺がんになる可能性はある。石綿を除去するには放射性物質と同じくらいの注意を払う必要がある。国は法律整備などを早急にすべきだ」と警告している。

こうした指摘に加藤勉・市教委施設部長は「横山医師の指導を受けて、子供たちが学校を離れる夏休み中に最善の策をとりたい」としている。

こうして指摘に加藤勉・市教委施設部長は「横山医師の指導を受けて、子供たちが学校を離れる夏休み中に最善の策をとりたい」としている。

こうして指摘に加藤勉・市教委施設部長は「横山医師の指導を受けて、子供たちが学校を離れる夏休み中に最善の策をとりたい」としている。